

生存科学研究ニュース

VOL. 12. NO. 2

1997. 3. 10 発行

発行 財団法人 生存科学研究所

〒104 東京都中央区銀座4-5-1

電話 03-3563-3518

平成9年度事業計画について 理事長代行 江見 康一

事業計画の中心となる
新規の自主研究事業につ
いては、次の3項目が立
てられた。



- A. 21世紀医療システム研究会
- B. 生存科学基礎論研究会
- C. 都市型大災害後の復興期における非定住学童児の精神的変化と復興支援効果に関する準備調査研究

以上の内容についての要旨は以下の通り。

A. 21世紀少子・高齢社会への基本的対応として、保健医療システムの改革を取り上げる。すでに国会の場で審議されている医療保険制度の改革と公的介護保険の導入をめぐる、大学・研究所・関係諸団体の有識者十数名による掘り下げた討議を行ない、「報告書」をまとめる。他方、近年における医科学の目ざましい進歩とその適用範囲に伴う「生命倫理」の問題に進み、真の「生存福祉とは何か」についての問題提起を行なう。委員長は、江見康一副理事長（理事長代行）を予定。

B. 生存科学基礎論研究会は、文字通り生存科学の理念と構造およびその実践的課題との関係を総合的に把握するためにもうけられたもので、前八千代国際大学学長板垣與一教授（本財団理事）を委員長として、平成7～8年度の2年度にわたって10課題の研究報告が行われ、一応初期の目的を達することができた。この間、研究報告の多くは機関誌『生存科学』に掲載されたが、研究会が計画年度を終了するのを期に、各報告を集大成して『研究報告書』として残すこととなった。この基礎論研究会の成果を踏まえて、平成9年度には、最近における「複雑系」研究の成果を取り入れ、生存科学研究所が本来目ざしてきた基本的課題へ取り組むことが予定されている。

C. 第3の研究は、阪神大震災により被災し、家庭という定住先を失った児童に対し、情緒障害などの精神的受傷から早期に回復するための条件整備と、それによる支援効果の研究を目ざすものである。本年度は、このような研究を有効に進めるための準備調査期間として位置づけられた。



第11回「生存科学基礎論」研究会 自由討論

平成9年2月21日(金)午後4時半から、生存科学研究所会議室において表記の研究会が開催され、本研究会の座長であり、前八千代国際大学学長の板垣與一教授の司会で今後の研究会の在り方について討議が行われた。

なお、平成7年7月以降10回にわたって行われた研究課題と報告者は以下の通り。

生存科学基礎論研究会研究発表一覧

第1回	生存科学への道	江見 康一
第2回	産業生態科学について	土屋健三郎
第3回	ヘルエコミックスについて	田村 貞雄
第4回	先端科学技術と社会思想 —物質・生命・人間—	高瀬 淨
第5回	経済体制を考える	筑井 甚吉
第6回	生命科学と生存科学	青木 清
第7回	成長の限界	向山 定孝
第8回	生存の危機管理	師岡 孝次
第9回	ハイノミックスについて	鈴木 雪夫
第10回	「生存科学の課題と方法」について	板垣 與一

全体のスケジュールを一覧すると、生存科学という学問に対し、各研究メンバーがどのような切り口から取り組んでいこうとしているかが知られる。

第1回に江見委員は生存科学という学問のもつ特性を、「環境・人間・経済・文化」という4つの要因の総合的体系としてマクロ的に捉えたが、高瀬委員は、同様の包括的体系化を「物質・生命・人間」の相互関連として捉えている。以上に対し、他の委員は自らの専門とする特定領域について、さらに掘り下げた議論を行ったが、これらのうち土屋委員

と青木委員は、生存科学の内包する科学としての重要な特性を浮き彫りにし、田村委員と鈴木委員はエコノミックスとのかかわり方を明らかにし、筑井委員はそれをとくに経済体制の側面から論じている。つぎに向山委員と師岡委員は成長の限界とそれによってもたらされる生存危機管理の重要性を指摘した。

会議は毎回全員が出席して白熱の自由討論が繰り返されたが、会議の進行日程については、そのつど「生存科学研究ニュース」にも紹介された。最後に板垣教授はこれら各切り口の議論を一つの土俵に持ちよって整序しながら、教授の年来の科学的方法論史の基盤に立って「生存科学の課題と方法」という中間段階のまとめを示された。

今後、この基礎論研究会論研究会は、10回にわたる論議を踏まえて、新年度の研究計画ではさらに具体的実践課題との関連領域についての展開が期待されている。

平成8年度第3回常務理事会

平成8年度第3回常務理事会が、1月16日(木)午後2時から、生存科学研究所内会議室において開催された。出席者は、江見副理事長・理事長代行他6名であり、江見氏が議長に就任し、下記の項目について討議がなされた。

- (1) 運用替えについて
 - A. 運用替えについて
- (2) 平成9年度事業計画と収支予算について
 - A. 平成8年度事業計画
 - B. 平成8年度調査研究項目別予算表
- (3) レオンシェフ文庫の進捗状況について

A. レオンチェフ文庫経過報告

(4) 川崎病研究会について

A. 川崎病に関する当事者会談について

(5) バイオサナトロジー学会ト部提案について

A. 財団法人生存科学研究所寄附行為

B. 平成8年度調査研究項目別予算表

平成8年度第4回常務理事会

平成8年度第4回常務理事会が、2月19日(水)午後2時から、生存科学研究所内会議室において開催された。出席者は、江見副理事長・理事長代行他5名であり、江見氏が議長に就任し、下記の項目について討議がなされた。

- (1) 収支と運用替状況について
- (2) 平成9年度事業計画について
- (3) 理事・評議員の改選について
- (4) その他

平成8年度第5回常務理事会

平成8年度第5回常務理事会が、3月6日(木)午後2時から、生存科学研究所内会議室において開催された。出席者は、江見副理事長・理事長代行他5名であり、江見氏が議長に就任し、下記の項目について討議がなされた。

- (1) 役員・評議員の人選について
- (2) 平成9年度事業費配分について
- (3) その他

平成8年度第3回理事会・第2回評議員会

平成8年度第3回理事会・第2回評議員会が、3月13日(木)午後2時から、銀座教会会議室において開催された。出席者は、理事会が13名、評議員会が24名であり(委任状を含む)、副理事長・理事長代行の江見氏が議長に就任し、下記の項目について討議がなされた。

- (1) 平成9年度事業計画および収支予算書について
- (2) 役員および評議員の改選について
- (3) 議事録署名人の選任について
- (4) その他

議事は、寄付行為の定めに従い、評議員会において、上記項目の第1号議案が審議され、了承された後、第2号議案の役員改選人事が行なわれた。そのさい、役員候補については、あらかじめ常務理事会で検討された候補者リストを基礎に候補当事者からの希望を入れた修正原案に基づいて審議が行われ原案通り可決された。

評議員会の議事録署名人を選任し、少憩のち理事会が開催された。第1号議案は評議員会と同様に了承され、第2号議案である評議員の改選人事についても、原案通り可決された。

理事会についての議事録署名人が選任されたあと、江見副理事長・理事長代行から、新年度の事業計画についての補足説明があり、生存科学研究所の研究の一層の活発化について出席者一同への協力要請がなされた。

上記評議員会、理事会で選出された評議員

役員については、委嘱状によって本人の承諾が得られれば、正式に就任の運びとなる。

なお、役員については理事長、副理事長、専務理事、常務理事を互選しあって選ぶための理事会を4月23日（水）に開くことが決定されたので、5月から新執行体制が発足することになる。

レオンチェフ文庫3者会談続報

「生存研ニュース」前号（Vol.12, NO1）の「レオンチェフ文庫3者会談」の第2段落の記述が不正確でありましたので、次のように改めさせていただきます。

前号では昨年12月11日に開催された「レオンチェフ文庫3者会談」に関し、中央大学渥美総合政策学部長の発言をご紹介しましたが、その際に、中村弁護士から、レオンチェフ文庫契約は「信託」契約にはできないので、あくまでも寄託契約とし、ただし、民法上の寄託契約とは異なるので、「特別」の文

言を加えて、民法上の寄託契約ではない旨を明きらかにすることとし、そういう表現で3者間の合意を見たものである旨の説明があったことを付け加えます。したがって、この契約は信託契約でないことをご理解願いたいと存じます。

研究所日報

- 1月16日（木）平成8年度第3回常務理事会
- 1月20日（月）第1回レオンチェフ文庫2者会談
- 2月7日（金）第2回レオンチェフ文庫2者会談
- 2月26日（水）第3回レオンチェフ文庫2者会談
- 2月19日（木）平成8年度第4回常務理事会
- 2月21日（金）第11回生存科学基礎論研究会
- 3月6日（木）平成8年度第5回常務理事会
- 3月13日（木）平成8年度第3回理事会・第2回評議員会